

主要国・国際機関等のニュース記事一覧

対象期間		2024年9月10日～2024年10月8日																				
注目 記事	No.	公開日	機関名	キーワード	ニュースタイトル(原文)	ニュースポイント(短文)	内容	感染症種別	ニュース種別											リンク1	リンク2	
									当該機関の 戦略/方針	ワクチン 開発進捗	取組		資金提供			イベント	組織設立・ 再編	感染症状況				
											当該機関	支援対象	重点感染症	その他 疾患	外部から 当該機関へ							
★	1	2024/9/13	WHO	Mpox、ワクチン、 Bavarian Nordic、MVA- BN、事前承認	WHO prequalifies the first vaccine against mpox	WHOはBavarian Nordic社 のMVA-BNをMpoxに対する 初めてのワクチンとして事前認 証リストに追加すると発表	9月14日、WHOはBavarian Nordic社のMVA-BNを Mpoxに対する初めてのワクチンとして事前認証リストに追加す ると発表した。今回の事前認証は、Bavarian Nordic社から提 出された情報と欧州医薬品庁EMAによる審査にもとづく。 MVA-BN ワクチンは、18 歳以上の人に対して、4 週間間隔 で2回接種することができる。現在、18歳未満の小児には認可 されていないが、ワクチン接種の有益性が潜在的なリスクを上 回る場合は、「適応外使用」として乳児、小児、青少年、ならびに 妊娠中および免疫不全の人々にも使用できる可能性がある。ま た、WHOは供給が限られている流行状況下では、1回投与を推 奨している。WHOは、このような状況下でのワクチンの安全性 と有効性に関するさらなるデータの収集の必要性を強調してい る。 WHOでは今回追加されたMVA-BN以外にLC-16と ACAM2000という2つの他のMpoxワクチン製造業者との間 で、事前認証と緊急使用リスト(EUL)収載の手続きを進めてい る。また、緊急使用リスト収載のためのMpox診断薬に関する関 心が6件寄せられている。	Mpox	●		●										リンク	
	2	2024/9/13	WHO	インフルエンザ、治療 ガイドライン	WHO updates influenza care guidelines, includes recommendations for viruses with pandemic potential	WHOがインフルエンザ治療ガイ ドラインを改定し、パンデミック を引き起こす可能性があるイン フルエンザ等への治療指針を提 示	WHOがインフルエンザ治療ガイドラインを改定した。ガイドライ ンは、主としてインフルエンザ患者の治療を行う医療関係者向け であるが、エビデミックやパンデミックに対処する政策立案者等 への参考指針としても利用できる。 ガイドラインには、抗ウイルス薬等の利用に関する推奨事項が提 示されている。また今回改定したガイドラインは、季節性インフル エンザ、パンデミックを引き起こす可能性があるインフルエンザ、 重篤な症状を引き起こす新しいタイプのインフルエンザA型に感 染した患者にも適用される。	インフルエン ザ			●										リンク	
★	3	2024/9/13	WHO	Mpox、MCM、アク セス・配分メカニズム	WHO and partners establish an access and allocation mechanism for mpox vaccines, treatments, tests	WHOとそのパートナーが Mpoxに対するMCM(危機対 応医薬品等)へのアクセスと配 分のためのメカニズム(AAM) を設立	WHOとその連携機関は、MpoxのPHEIC宣言を受けて、 Mpoxに対するMCM(危機対応医薬品等)へのアクセスと配分 のためのメカニズム(Access and Allocation Mechanism : AAM)を設立することで合意した。 AAMは、Interim Medical Countermeasures Network (i-MCM-Net)の一部として設立され、アフリカ CDC、CEPI、GAVI、UNICEFなどが参加する。 AAMは、①疾病と死亡の予防、②不公平性の緩和、③透明性と 柔軟性の確保を基本指針とし、高リスクの人々へのMCMへのア クセスを拡大し、供給が限られている中、効率的かつ公平に使用 されるように取り組む。	Mpox	●											リンク		
★	4	2024/9/13	NIH、 NIAID	将来的なパンデミッ ク、ReVAMPP、 MCM	NIH awards establish pandemic preparedness research network	NIH傘下のNIAIDは、優先度の 高い感染症に対するワクチンや モノクローナル抗体の研究開発 を推進するために、パンデミック 対策研究ネットワーク ReVAMPPを構築	NIH傘下の国立アレルギー・感染症研究所(NIAID)は、優先度 の高い感染症に対するMCM(危機対応医薬品等)の研究開発を 推進するため、「パンデミック対策のためのワクチン・モノクロー ナル抗体の研究開発ネットワーク」(Research and Development of Vaccines and Monoclonal Antibodies for Pandemic Preparedness network, ReVAMPP)を構築した。NIAIDは年間約1億ドルを拠出する 予定。 ReVAMPPでは、クリミア・コンゴ出血熱、ラッサ熱、フラビウイ ルス科(デング熱等)、パラミクソウイルス科(麻疹等)、ピコルナ ウイルス科(ポリオ等)、トガウイルス科(チクングニヤ等)等のウイ ルスに焦点を当て、ワクチン候補やモノクローナル抗体の開発研究 に重点的に取り組むことで、対象となるウイルス科のウイルス がパンデミックの脅威となる場合に、より迅速かつ効果的なパン デミック対応の基盤を築く。ノースカロライナ州ダーラムのリ サーチ・トライアングル研究所が、調整およびデータ共有の中心 拠点となり、ネットワークのサポートと調整を行う。	クリミア・コン ゴ出血熱、 ラッサ熱、フ ラビウイルス 科(デング熱 等)、パラミク ソウイルス科 (麻疹等)、ピ コルナウイル ス科(ポリオ 等)、トガウイ ルス科(チク ングニヤ等) 等	●		●		●	●						リンク	リンク	
★	5	2024/9/16	UNICEF	Mpox、資金調達	UNICEF appeals for US\$58.8 million to address mpox crisis as cases among children rise	子供のMpox感染の増加を受け て、UNICEFが5,880万米ド ルの資金援助を要請	アフリカでMpoxが流行し、子供が最も大きな影響を受けてい ることから、UNICEFは5,880万米ドルの資金援助を要請し た。今回の要請は、クレード1の感染が増加しているアフリカ6ヶ 国の子供への支援を目的とする。 UNICEFのMpoxへの取組みは、健康・教育当局による計画や 取組みの調整、リスクコミュニケーション、感染の抑制、ワクチン 接種、患者治療のマネジメント、メンタルヘルスの支援、社会サー ビスなどの基本サービスを柱としている。UNICEFは、パート ナーと連携しながら、感染拡大のリスクが高い他のアフリカ諸国 にも支援を広げていく。	Mpox	●		●									リンク		

	6	2024/9/17	NIH	RECOVER Initiative、メトホルミン、糖尿病、long COVID	Use of metformin in adults with diabetes linked to lower risk of long COVID	NIHが助成した研究イニシアティブRECOVERにより、メトホルミンを処方された2型糖尿病患者は、他の糖尿病治療薬を服用した患者よりもlong COVIDの発症リスクやCOVID-19による死亡率が低いことが判明	NIHが助成したNIH RECOVER Initiative (Researching COVID to Enhance Recovery)により、メトホルミンを処方された2型糖尿病患者は、他の糖尿病治療薬を処方された患者よりもCOVID後遺症の発症リスクやCOVID-19感染後の死亡率が低いことが明らかになった。2023年に実施された治験では、メトホルミンにより、多くは糖尿病ではない過体重または肥満のCOVID-19患者のCOVID後遺症の発症を抑えることが示された。今回の研究では、全米の3,800万人の電子カルテのデータを調査し、2型糖尿病患者におけるCOVID後遺症やCOVID-19による死亡率がメトフォルミンにより13-21%低下するとの結果が得られた。	コロナウイルス感染症					●	●							リンク	
★	7	2024/9/17	NIH、NIAID	Mpox、研究アジェンダ	NIH releases mpox research agenda	NIH傘下のNIAIDが、Mpoxの検出・治療・予防を進めるために、Mpox対策の研究アジェンダを公表	NIH傘下の国立アレルギー・感染症研究所(NIAID)は、現在のMpox流行に対する米国政府の対応の一環として、Mpoxに関する最新の優先研究課題を公表した。NIAIDの Mpox 研究アジェンダでは、次の4つの主要目標に焦点を当てている: ①Mpoxウイルスのすべてのクレードに対する知識の増加、②新たなワクチンのコンセプトの開発、③抗ウイルス薬・モノクローナル抗体等の既存および新規の治療法の進歩、④ウイルスを検出するための戦略支援。NIAIDは、国内および国際的な研究インフラを強化して、研究目的の達成を目指す。	Mpox	●			●		●						リンク	リンク	
	8	2024/9/17	UNICEF	Mpox、ブルンジ、感染状況	One-third of mpox cases in Burundi among school-age children	UNICEFがブルンジにおけるMpox感染状況について声明を発表し、ブルンジではMpox感染者の3分の1が5-19歳の子供であり、子供への支援の強化が必要であることを強調	UNICEFはブルンジ共和国におけるMpoxの感染状況について声明を発表した。それによれば、ブルンジではMpox感染者の33%を5-19歳の学齢期の子供が占めており、新学年の準備をする家庭の新たな課題となっている。UNICEFは、学校におけるMpoxの感染拡大を防止し、感染した子供がドロップアウトするのを防ぐために、ブルンジ教育省に技術的支援を行っている。こうした状況を受けて、UNICEFはブルンジを含むアフリカ諸国を支援するために、5,880万米ドルの支援を呼びかけている。	Mpox											●	リンク		
	9	2024/9/18	CEPI	世界パンデミック対策サミット、成果報告書	The Global Pandemic Preparedness Summit 2024: Outcomes Report	CEPIは、グローバル・リーダーによる感染症対策への取組み状況を明らかにするため、世界パンデミック対策サミット2024の成果報告書を公表	CEPIは、2024年7月29、30日にリオデジャネイロで開催された世界パンデミック対策サミット2024の成果報告書 World Pandemic Preparedness Summit 2024: Outcomes Reportを公表した。サミットには、世界各国の感染症対策の専門家、政府関係者等が参加した。①世界規模のサーベイランスの強化、②ワクチン、診断薬、治療法に関する100日ミッション、③ワクチン、治療薬等への公平なアクセスを主要テーマとし、ワクチン対策におけるギャップと課題の克服について議論を行った。その結果、WHOによるpathogen prioritisation frameworkで示された病原体ファミリー別のアプローチや100日ミッション達成のためのセクター横断的な支援の必要性について合意が形成されつつあることが強調された。	感染症全般										●		リンク		
★	10	2024/9/19	GAVI	Mpox、ワクチン、Bavarian Nordic、MVA-BN	Gavi Signs Agreement with Bavarian Nordic to Rapidly Secure 500,000 Doses of Mpox Vaccines for Africa	GAVIワクチンアライアンスがMpoxワクチンMVA-BN 50万回分を緊急確保するために、Bavarian Nordicと契約	GAVIワクチンアライアンスは、Mpoxワクチン MVA-BN 50万回分を確保するため、Bavarian Nordic社との事前購入契約(Advance Purchase Agreement)に署名した。ワクチンは、2024年6月に設立されたGAVIのFirst Response Fundから資金提供される。First Response Fundは、COVID-19パンデミックを受けて設立された新たな資金メカニズムであり、公衆衛生上の緊急事態においてワクチンへの迅速なアクセスを確保することを目的とする。今回の契約で確保された50万回分のワクチンは2024年中にアフリカ諸国へ提供される。	Mpox	●			●		●						リンク		
★	11	2024/9/19	WHO	AMR、国連総会、ハイレベル会合	WHO at UNGA: Call for urgent, high-level action to address global scourge of antimicrobial resistance	WHOは、第79回国連総会ハイレベルウィークに開催された会合を通じて、薬剤耐性(AMR)問題に対処するための緊急かつハイレベルの取組みを呼びかけ	WHOは、第79回国連総会ハイレベルウィークに開催された会合を通じて、薬剤耐性(AMR)問題に対処するための緊急かつハイレベルの取組みを世界各国の指導者に対して呼びかけた。9月26日には、第2回薬剤耐性(AMR)に関するハイレベル会合が開催される。会合の政治宣言(案)に盛り込まれた対策を進めない限り、AMRの問題はさらに深刻化し、特に低中所得国に重大な影響を与える。WHOは、パートナーと協力しながら、世界規模の健康問題に対する取組みの重要性と投資の必要性についてアピールする。	薬剤耐性菌	●										リンク			
★	12	2024/9/19	BARDA	Basilea Pharmaceutica、抗真菌薬	BARDA awards \$29 million to Basilea Pharmaceutica for first-in-class anti-fungal treatments	BARDAがバシレア社によるファーストインクラスの抗真菌薬開発に2,900万ドルを資金提供	BARDAは、2,900万ドルを資金提供して、バシレア社(Basilica Pharmaceutica)による2種類のファーストインクラスの抗真菌薬開発を支援することを決定した。薬剤耐性侵襲性カンジダ症やアスペルギルス症に有効な広域スペクトラム抗真菌薬Fosmanogepixと、アスペルギルス症に対して迅速な抗真菌活性を持つBAL2062が開発の対象となる。FosmanogepixとBAL2062は、BARDAのポートフォリオに加わる初の抗真菌薬であり、放射線や核による大量死傷事故などの大規模な人命被害事故後に発生する可能性がある真菌感染症の治療に新たな薬剤が緊急に必要とされているという課題に対応する。今回の研究開発は、BARDAのStrategic Plan 2022-2026の目標達成に貢献することが期待される。	薬剤耐性菌、その他	●			●		●	●					リンク		

	13	2024/9/20	WHO	パンデミック条約、政府間交渉会議、将来的なパンデミック	Governments progress on negotiations for a pandemic agreement to boost global preparedness for future emergencies	ジュネーブで開催されたWHOの政府間交渉会議(INB)においてパンデミック条約に関する協議が行われ、将来的なパンデミックに対する世界的な対応に向けた議論が進展	9月9-20日にスイス・ジュネーブで開催されたWHOの第11回政府間交渉会議(Intergovernmental Negotiating Body:INB)においてパンデミック条約(Pandemic Agreement)に関する協議が行われた。この会合では草案合意に関する実質的な進展があり、市民社会および非国家主体の関与が増加し、パンデミック条約に向けた機運を維持するために全ての関係者が献身していた。次回のINBは11月4-15日に開催される。	感染症全般									●				リンク	
	14	2024/9/23	CEPI	米州、PAHO、PANDRH、規制調和、健康危機対応	PAHO and CEPI to advance regulatory harmonization and response to health emergencies in the Americas	PAHO(パンアメリカン保健機関)とCEPIが米州地域における規制調和と健康危機対応を推進するための協定に署名	PAHO(パンアメリカン保健機関)とCEPI(感染症流行対策イノベーション連合)は、第79国連総会が開催されたニューヨークで、米州地域における規制の調和と収束の推進を目的とした技術協力協定に署名した。協定の目的は、PANDRH(Pan American Network for Drug Regulatory Harmonization:医薬品規制調和のための全米ネットワーク)の活動を推進することであり、この合意に基づいてCEPIはPANDRHの技術事務局としてPAHOの取り組みを支援し、各国のパンデミック対策を支援する。	感染症全般	●			●									リンク	
★	15	2024/9/25	CEPI	CEPI、100日ミッション、バイオセキュリティ戦略	CEPI puts new biosecurity strategy at heart of 100 Days Mission	CEPIが100日ミッションを中核に据えた新たなバイオセキュリティ戦略を発表	CEPI(感染症流行対策イノベーション連合)は、世界的な健康安全保障の強化を目的とした新たなバイオセキュリティ戦略を発表した。この戦略は、世界的な健康安全保障を強化するとともに、自然発生、偶発的、または意図的悪用による感染症やパンデミックの脅威に取り組みに対するCEPIの決意を強調するものであり、新興病原体がもたらすリスクを軽減するために、最先端の技術を活用し、国際的な協力を促進する。バイオセキュリティ戦略の中核は、100日ミッションという新たな感染症の脅威が確認されてから100日以内にパンデミックを阻止するワクチンを開発する計画である。他に迅速なワクチン開発、バイオセキュリティと公平性、世界規模の協力体制、リスク軽減などの事項が盛り込まれている。	感染症全般	●			●									リンク	
★	16	2024/9/25	BARDA	ASPR、BARDA、インフルエンザワクチン、アジュバント、備蓄	ASPR awards \$121.4 million for vaccine influenza pandemic preparedness	米国保健福祉省のASPR(事前準備対応次官補局)が1億2,140万ドルを拠出して、インフルエンザワクチン用アジュバントの備蓄を強化	米国保健福祉省のASPR(Administration for Strategic Preparedness and Response:戦略的準備・対応管理局)は、1億2,140万ドルを拠出して、CSL Seqirus社と契約を結び、アジュバントの国家備蓄を強化することを決定した。今回の契約のもと、CSL Seqirus社は、vendor-managed inventory方式に従い、インフルエンザワクチン製造用のアジュバントMF59の国家備蓄を随時更新しながら約4,000万回分の在庫を維持する。今回の取り組みは、BARDAの米国新型インフルエンザワクチン備蓄(NPIVS)プログラムとも連携している。	インフルエンザ	●			●		●						リンク		
	17	2024/9/26	WHO	WHO、AMR、政治宣言、国連総会ハイレベル会合	World leaders commit to decisive action on antimicrobial resistance	第79回国連総会AMRハイレベル会合において、世界各国の指導者がAMR対策の明確な目標と行動が盛り込まれた政治宣言を承認	9月26日に開催された第79回国連総会において、薬剤耐性(AMR)に関するハイレベル会合で、世界各国の指導者が明確な目標と行動を盛り込んだ政治宣言を承認した。この宣言は、2030年までにAMR関連の年間死亡者数を10%削減し、持続可能な資金調達と1億米ドルの触媒的資金を求め、少なくとも60%の国がAMRの国家行動計画に資金を提供することを目指している。また、抗菌薬の使用量削減、感染予防と管理、環境への抗菌薬排出防止などの目標も含まれている。 国連食糧農業機関(FAO)、国連環境計画(UNEP)、世界保健機関(WHO)、および世界動物保健機関(WOAH)は、この宣言を歓迎した。宣言は、AMRに対処するための多部門の対応の必要性を強調し、グローバルな監視データの報告や、医薬品、治療、診断へのアクセスの重要性を認識している。また、クアドリパート共同事務局を中心とした調整メカニズムの設立や、2026年までにグローバルアクションプラン(GAP)の更新を求めている。	薬剤耐性菌										●			リンク	
★	18	2024/9/26	UNICEF	UNICEF、Mpox、MVA-BN、ワクチン調達、途上国	UNICEF signs mpox vaccine deal at lowest market price for 77 low- and lower-middle-income countries	UNICEFが77の低・低中所得国を対象に市場最低価格でmpox ワクチン契約を締結	UNICEFは、MVA-BN mpoxワクチンを最低市場価格で供給し、77の低・中所得国にワクチンへのアクセスを確保する契約を締結した。この契約は、増加するMpoxの危機に対応するため、より手頃な価格のワクチンを提供する重要な節目となり、2025年以降の持続的なワクチンアクセスの道を開くものである。契約は、UNICEFが8月29日に発行した緊急入札の結果であり、9月13日にWHOがMVA-BN mpoxワクチンを事前承認したことに基づくものである。UNICEFは1回分65米ドルという最低価格で購入し、コンゴ民主共和国を含む77か国へのワクチン供給を保証する。また、2024年には最大100万回分のワクチンを調達し、そのうち50万回分はGaviの支援を受けて提供する予定である。さらに、UNICEFはMpoxワクチンの長期的な供給を確保するため、追加提案を検討している。UNICEFは、感染予防と管理、リスクコミュニケーション、コミュニティの関与を優先し、医療と教育当局を支援している。	Mpox	●			●		●						リンク		

	19	2024/9/26	BARDA	BARDA、COVID-19、迅速検査キット、SCoV-2 Ag Detect Rapid Test、FDAクリアランス	BARDA-Supported Rapid COVID-19 Test Receives FDA Clearance	BARDAの支援を受けて開発されたCOVID-19迅速検査キット SCoV-2 Ag <i>Detect</i> Rapid Test(InBios International社)がFDAクリアランスを取得	BARDAの支援を受けてInBios International社が開発したCOVID-19迅速診断キット SCoV-2 Ag <i>Detect</i> Rapid TestがFDAクリアランスとCLIA(Clinical Laboratory Improvement Amendment)のwaiver認証(簡易な臨床検査のみ実施可能)を取得した。 本キットは、point-of-careのラテラルフローテストで、鼻腔ぬぐい液サンプルからSARS-CoV-2 抗原を検出できる。 BARDAは、これまでにInBios社と共同でジカウイルス、炭疽、COVID-19の検査キットの開発を進めてきた。今回のFDAクリアランス取得は、BARDAの2022-2026 Strategic Planにおける重要なステップである。	コロナウイルス感染症					●	●							リンク	
★	20	2024/9/27	WHO	WHO、インフルエンザ、ワクチン製造株	Recommendations announced for influenza vaccine composition for the 2025 southern hemisphere influenza season	WHOが2025南半球のインフルエンザシーズンに向けたインフルエンザワクチンの推奨ウイルス株を発表	WHOは、2025南半球のインフルエンザシーズンに向けたインフルエンザワクチンの推奨ウイルス株を発表した。 今回開催されたワクチン株選定会議では、GISRS(Global Influenza Surveillance and Response System)によるサーベイランスデータをもとに、世界各地の関連研究機関の専門家がワクチン製造株の選定について議論した。	インフルエンザ	●		●										リンク	
	21	2024/10/1	WHO	WHO、ブラジル、リンパ系フィラリア症、根絶	Brazil eliminates lymphatic filariasis as a public health problem	WHOは、ブラジルがリンパ系フィラリア症(象皮病)の根絶に成功したことに祝意を表明	WHOは、ブラジルがリンパ系フィラリア症(象皮病)の根絶に向けた取り組みを実施してきた。1997年にはこの病気を克服するための国家計画を策定し、抗寄生虫薬の大量配布、媒介生物の駆除活動、感染地域を中心とするサーベイランスなどを進めてきた。その結果、2017年には感染の終息を達成した。 リンパ系フィラリア症は、顧みられない熱帯病(NTDs)の1つであり、既にマラウイ、エジプト、バングラデシュ、カンボジアなど19の国と地域で根絶されている。ブラジルは根絶に成功した20番目の国となった。	NTDs											●	リンク		
★	22	2024/10/1	GAVI	GAVI、ワクチン接種プログラム、資金提供、国連総会	Gavi secures vital support for immunisation at United Nations General Assembly	ニューヨークで開催された第79回国連総会で、GAVIは欧州委員会を始めとする先進国ドナーからワクチン接種のための資金を確保	GAVIワクチンアライアンスは、第79回国連総会が開催されたニューヨークで先進国ドナーと協議を行い、ワクチン接種のための重要な資金を確保することに成功した。 欧州委員会のフォン・デア・ライエン委員長は、2030年に向けたGAVIの目標達成を支援するために、2026年～2027年にかけて2億6,000万€以上の新たな資金提供を約束した。さらにGAVIは米国国際開発金融公社(DFC)との新たなパートナーシップにより、定期的および緊急のワクチン接種のための資金を確保した。薬剤耐性に関して、国連総会AMR(薬剤耐性)ハイレベル会合の政治宣言において、ワクチン接種を含む予防対策が言及されたことにGAVIは賛意を表明した。	感染症全般	●		●										リンク	
★	23	2024/10/2	GAVI	GAVI、ワクチン接種プログラム、Annual Progress Report2023	1.3 million future deaths prevented by Gavi-supported vaccines in 2023	GAVIがAnnual Progress Report 2023を発表 GAVIが支援したワクチン接種プログラムにより、2023年は130万人の将来的な死亡が回避されたことを公表	GAVIワクチンアライアンスは、Annual Progress Report2023を作成し、GAVIの支援によるワクチン接種プログラムの成果をとりまとめた。 2023年には、過去2番目に多い6,900万人の子供が予防接種を受けた。これにより、2000年のGAVI設立以来、定期予防接種を受けた子供は11億人を超えた。GAVIが支援した予防接種による2021年以降の経済的便益は、520億米ドル以上と試算された。 GAVIが支援する予防接種プログラムにより、2023年には130万人以上の将来の死亡が回避された。 特に2023年はHPVワクチン接種プログラムを大幅に強化し、1,400万人の少女がHPVワクチンを接種し、これにより子宮頸がんだけで60万人以上の将来的な死亡が回避された。	感染症全般	●		●										リンク	
★	24	2024/10/2	CEPI	CEPI、ラッサ熱、疫学研究、西アフリカ	Largest-ever Lassa fever study launches in-depth look at disease symptoms	CEPIとパートナーの支援により実施された過去最大規模の研究プロジェクトEnableにより、今後ラッサ熱の詳細な症状が明らかにされる	ナイジェリアの科学者たちは、致命的なラッサ熱の症状の多様性とマラリアなどの他の感染症との比較を明らかにするための先駆的な研究を開始した。この研究は、CEPIとそのパートナーによって設立された世界最大のラッサ熱研究である「Enable」の一環であり、西アフリカにおける疾病負担をより正確に把握し、ラッサワクチンの開発に役立てることを目的としている。 5,000人の健康な人々がこの1年間の研究に参加する予定であり、ナイジェリアやシエラレオネ、リベリアで実施される。この研究は、ラッサ熱の発生率や症状の多様性、マラリアとの共感染などを調査し、将来のワクチン開発と感染対策に役立つ知見を提供することを目指している。	ラッサ熱	●		●		●								リンク	
★	25	2024/10/3	WHO	WHO、デング熱、アルボウイルス、SPRP	WHO launches global strategic plan to fight rising dengue and other Aedes-borne arboviral diseases	WHOがデング熱やその他の蚊媒介性のアルボウイルス科の感染症に対するGlobal Strategic Preparedness, Readiness and Response Plan (SPRP)を策定	WHOは、デング熱やその他の蚊媒介性アルボウイルス科の感染症(ジカ熱、チクングニア熱等)に対するGlobal Strategic Preparedness, Readiness and Response Plan (SPRP)を策定した。計画は、世界的に連携のとれた取組みを推進することにより、疾病負担を低減し、デング熱等による感染者、死亡者を減らすことを目的とする。SPRPの主要な5要素は、緊急時における調整、共同サーベイランス、コミュニティの保護、安全で拡張可能な治療、ワクチン等の対応手段へのアクセスである。計画は2025年9月まで実施され、5,500万米ドルを必要とする。	デング熱	●		●		●								リンク	

	26	2024/10/3	WHO	WHO、Mpox、検査キット、IVD、緊急使用リスト、EUL、In Vitro Diagnostics	WHO approves first mpox diagnostic test for emergency use, boosting global access	WHOがアボット・モレキュラー社の体外診断用医薬品(IVD)をMpox検査キットの第1号として緊急使用リストに掲載	10月3日、WHOはアボット・モレキュラー社の検査キット Alinity m MPXV assayをMpox用の体外診断用医薬品(In Vitro Diagnostics : IVD)として初めて緊急使用の承認をし、緊急使用リスト(Emergency Use Listing : EUL)に収載した。Alinity m MPXV assayは、real-time PCRを用いて患者の皮膚病変部のスワブからウイルス(クレードI/II)のDNAを検出する。 WHOはMpoxのPHEIC(国際的に懸念される公衆衛生の緊急事態)宣言を受けて、8月24日に製造業者に対してEULへの関心表明を提出するよう呼びかけた。今回承認された検査キット以外に、WHOはEUL評価のための追加提出書類を3件受理している。	Mpox	●		●									リンク	
★	27	2024/10/3	BARDA	BARDA、Project Bioshield、メルク、ERVEBO、エボラ、出血熱、	BARDA procures ERVEBO doses from Merck to strengthen preparedness for Ebola virus	BARDAはProject Bioshieldの資金で、ザイールエボラウイルスによる緊急事態に備えてメルク社のエボラ出血熱ワクチンERVEBOを調達	BARDAは、Project BioShieldの資金で、メルク社のエボラ出血熱ワクチンERVEBOを調達する。この調達により、米国政府はワクチンの供給を維持し、製造能力を維持することができ、ザイールエボラウイルス(一般にはエボラウイルスとして知られている)の発生に備えることができる。契約オプションにより、BARDAはワクチンの製造工程の最新化の開発も支援できる。EVREBOは、ザイールエボラウイルスに有効なワクチンとして、これまでに西アフリカやコンゴ民主共和国における流行時に使用されている。	エボラウイルス	●		●			●					リンク		
	28	2024/10/3	BARDA	BARDA、Lumos Diagnostics、迅速検査キット、呼吸器感染症、抗菌薬	BARDA and Lumos Diagnostics Partner to Bring Testing Closer to Patients	BARDAはLumos Diagnosticsとパートナーシップを結び、同社による呼吸器感染症の迅速検査キットの実用化とCLIA-waiver取得を支援	BARDAは、Lumos Diagnostics社と提携し、同社が開発する迅速検査キット FebriDx bacterial/non-bacterial point-of-care testの臨床試験とCLIA -waiver認証の取得を支援する。 本キットは、all-in-oneタイプのpoint-of-careラテラルフローテストで、細菌性感染により増加するCRP(C reactive protein)と非細菌性感染により増加するMxA (Myxovirus resistance protein A)を検出することにより、呼吸器感染症が細菌性かどうかを約10分間で判定できる。これにより臨床医の抗菌薬使用判断が容易になり、抗菌薬の適性使用が促進される。 今回の提携は、BARDAの2022-2026 Strategic Planに沿ったものである。	その他(呼吸器感染症)、薬剤耐性菌	●		●		●	●					リンク		
	29	2024/10/7	BARDA	BARDA、Mode X Therapeutics、Project NextGen、SARS-CoV-2抗体	BARDA Continues Partnership with ModeX Therapeutics under Project NextGen to Develop Multispecific Antibodies for SARS-CoV-2	BARDAは最大3,500万ドルを拠出して、Project NextGenのもとで開発が進められているModeX Therapeutics社のSARS-CoV-2多重特異性抗体の研究開発を継続することを決定	BARDAは、Project NextGenのもとでModeX Therapeutics社(OPKO Health社の子会社)が開発を進めているSARS-CoV-2多重特異性抗体(mAb)の開発を継続する。 BARDAは、2023年9月から同社のmAb開発を支援している。今回の契約では、最大3,500万ドルを拠出して、2つ目の多重特異性mAbの前臨床から第1相試験までを支援する。開発される多重特異性mAbはRNA発現型で、病原体の複数の系統に対する防御が可能になるとともに、病原体の変異の影響も受けにくくなる。さらに、従来のモノクローナル抗体よりも製造コストの削減が期待できる。	コロナウイルス感染症	●		●		●						リンク		

注目記事星取ルール
ワクチンの開発状況
ワクチンや重点感染症に関するFAの戦略/方針
ワクチン開発関連において新規技術の活用